

## 行政視察報告書

委員会名（会派名）	議会広報等特別委員会	報告者	長井 由喜雄
視察日程	令和5年1月23日（月）～1月24日（火）		
調査事項 及び 視察地	① 株式会社社会議録センター		
	市民に親しまれる議会だよりの紙面づくりについて		
	② 埼玉県寄居町議会		
	広報公聴に関する活動、取り組みについて		
参加議員（委員）	長井 由喜雄 委員長、近藤 隆行 副委員長、稲村 隆行、佐野 大輔、高橋 妙子、小林 秋光、大島 靖浩、小林 由明、タナカ・キン、中山 眞二 議長		
<p><b>【調査目的・内容】</b></p> <p>①株式会社社会議録センター 市民に親しまれる議会だよりの紙面づくりについて</p> <p><b>【所感】</b></p> <p>午前中は、「次号で生かす」をテーマに「見出し・写真」「見開き紙面」「伝える力」の講義を受けた。「見出し・写真」については、実際につばめ市議会ノートブックに掲載された写真をもとにトリミング（強調したい部分を切り取る）をすることによって伝えたいことの強調が文章にしっかり連動して読者に訴えかけることや、キャプション（写真に添える言葉）ひとつでただの写真が読者をしっかりと文章に引き込むかの大きな違いが生まれることを学んだ。</p> <p>実際に私自身の12月議会での写真も添削いただいたが、一番強調したいことをキャプションに一言でも入れ込むかどうかで読者の目を惹きつけるかどうかの大きな違いが生まれることを実感することができた。</p> <p>「見開き紙面を磨く」テーマでは、その号の中で読者である市民に一番強調したい中身を集約的に作るもので、見出しについては大いに「コトバ遊び」で読者を惹きつけるものとする、紙面の構成も大胆であっていいこと、また大胆さが必要なことであることを学ぶことができた。</p> <p>① いずれにしても我々編集委員が積極的にこれについて意見を述べあうことが委員会の中でできるかが鍵となる。</p> <p>「伝える力を磨く」ことについては、議会事である議案審議や議員の質問などをどうやって読者である市民の目を向けてもらうことができるかを問うものであり、何を伝えたいのか、そのためには中身をどう選択するのか、そしてこれに目を向けてもらうためにはどういう紙面構成をすればいいのかなど、紙面構成の大胆さと必要性を紙面に入れ込む力を持たなければならないとあらためて感じた。</p> <p>午後は、実際に発行した紙面の見開きページを「再構成」することを実習テーマとしてチームごとに分かれて作業を進めるものであった。紙面の構成には「正解はない」くらいにさまざまな形がある。この作業の中では私も加わる「Nチーム」は見出しを決めることから始めたが、それぞれが理由を持って提案した見出し案について、これを絞っていく作業はなかなか大変だった。</p> <p>チームで作業を進めるという中では意見をまとめていくことの大変さを感じながらであったが、協調性を持って臨めば、自分以外の意見の良さにも気づくことができ、結果として「Nチーム」としての見出しは、優れたものであったと感じた。</p> <p>今回のメンバーは昨年10月において改選された議員であり、委員のうち6人が新しく議員となった方々だ。今回の研修における「講義」「実習」は、中身においても実践においても委員それぞれの発想や意見を知ることができて大変有意義なものであったと思う。</p>			

**【調査目的・内容】**

- ②埼玉県寄居町における議会広報発行について  
広報公聴に関する活動、取り組みについて

**【所感】**

寄居町の議会だよりは、町村議会におけるコンクールで4連覇を飾るなど、常に上位となる議会だよりで、発行の姿勢、紙面づくりにおけるアイデア、議会だよりづくりにおける議員の主体性など、全てにおいて先進的な活動をされている。

今回はその寄居町における議会だよりの発行過程など、私たちが参考にしたい、参考にしなければならないことを学びたく、全国から視察が絶えないという中で時間をとっていただいた。

遡って、寄居町の議会広報の皆さんは、2015年7月にわが燕市議会の「つばめ市議会ノートブック」を視察に来てくださったという縁がある。その時に寄居町議会広報の皆さんが一番のテーマとしていたのが「紙面の中の町民の登場」ということだった。

当時のつばめ市議会ノートブックは「市民に手に取ってもらい、まずは開いてもらうこと」という基本でもあり、またこの大きなテーマを持って、議員が直接市民のもとに出かけて取材をし、紙面に登場いただくということに挑戦していた頃で、寄居町さんにとってはなんと燕市議会の議会だよりがその先端としての取り組みをしているところであったのだ。

- ② 寄居町の議会広報はその後町民の登場を実現し、紙面づくりでもどんな紙面とするかというテーマや紙面構成、そのための準備と実際の文章、写真撮り、町民登場のアイデアなど全ての分野において議員が中心となった紙面づくりを成功させ、結果として町村コンクールで常勝を続けるという快挙を続けている。

今回の視察ではこれまでの紆余曲折を、当時の議長であった方や現委員長、長年議会広報に携わり、議会広報の意義についてその思いを重ねてこられた議員の皆さんが応対してくださった。委員の皆さんをお見受けすると年齢的にはベテランの方ばかりだったが、議会広報づくりという点では、「議会広報は町民と議会をつなぐ必要な媒体」であること、究極的には「議会広報づくりは議員のそれぞれの活動を町民に伝える手段でもある」ということを強調されていた。

これは当時の議長さんの言葉であり、とても印象的であった。

寄居町においても、議員全員が議会広報づくりの姿勢では共通ではないことも紹介されたが、燕市においても同様である。

寄居町がつばめ市議会ノートブックを視察に来られた頃は、議会においても一定の入れ替わりがあり、委員会においては1期目の議員が多かった。今期においてはその頃と同様の構成となっていることから、委員の皆さんの考え方や議会だよりづくりへの自由な発想での意見などを大切にしながら、今回の研修と視察を十分に参考として委員会運営に当たりたいというのが、委員長の役割を与えられた私の思いでもある。

【視察の様子】

① 埼玉県鴻巣市 株式会社会議録センター



② 埼玉県寄居町

